

あだたら

発行所
三本松市木ノ原
あだたら山の会
編集

二月十七日(日)

二月山行

口太山 (八四三) 度
女神山 (五九九) 度
千貫森 (四六二) 度

報告 齋藤



8時50分、口太山山頂

【参加者】 C.L長澤
S.L佐藤
・ 記録齋藤
・ 渡辺

(五名)

【行動】朝八時、二本松市東和支所に集合。早速、地元である長澤さんからコース説明あり、最初に口太山

●編集部連絡先
二本松市都内1-5-15
0243(22)4245
渡辺 正

登山口である夏無沼キャンプ駐車場に向いました。登山口から頂上まで三十分程のこと。最初から雪を踏みながらの道で、雪の上には野ウサギやタヌキの足跡があり雪ならではの楽しい山歩きでした。今日は、まだ二月なのに朝から暖かく、汗を流しながら頂上にとどろきました。頂上からの眺めは良い展望で、蔵王、安達太良山、那須の各連峰、手前には木幡山、日山、麓山などが眺められました。頂上ではタカ子さんの暖かい甘酒をご馳走になり、ゆっくりと上がってきただ道を下りました。下山して駐車場から少し下りた所に夏無沼があり氷が張っていて静かに眠っているようでした。次に、女神山の登山口である堀切登山口に車で移動。雪は全然無いので快適に登山開始。途中眺めの良い所に休憩所があり水補給します。また、カタクリの群生地があるとのこと、咲く頃にまた訪れたいと思えました。四十分ほどで頂上に着きました。頂上は広く整備され三六〇度の眺めで、すぐ近くに次に登る千貫森が見えました。頂上には私たちの他にも登っ

てる人がいて結構賑やかでした。渡辺さんの案内で、頂上直下の岩に、昔、京都から来た小千姫が川俣に養蚕を伝えたと言う姫の姿が岩に描かれているということ。今日一番の難所である大きな岩にロープが張ってあり、つかまっていきました。そこには、大きな岩の下にお姫様の胸から上の姿の岩があり、中央に金字で何か書かれてました。こんな山の中に京都から来るなんて、さぞかし大変だったろうなと思いました。下山は途中から歩きやすい林道に下りるコースを選んできて二十分で駐車場に着きました。お昼近くになっていたが千貫森に車で移動しました。ここで行動食をし、千貫森下りてから昼食にすることにしました。登山口はすぐ階段になっていて、急でジグザクに登って行くので疲れます。暖かい日なので家族連れの人達が多く賑やかです。途中から、かわいい、いろんな宇宙人の石人形が迎えてくれて楽しい山道です。頂上には二十分ほどで着きました。展望台があり、今登って来た女神山が目の前にそびえてて感激しました。一足早い春の日差しを感じながら、お腹もすいたし下山しました。人のいない駐車場に移動し昼食にします。長澤さんが持参したラーメンを作り、皆でナベを囲み朝から三山

を巡った感想などいろいろお話をし、大いに盛り上がりました。この時のラーメン本当に美味しかったです。今日は車二台で移動したので、お互い帰る方向がまちまちなので、昼食後三時頃ここで解散しました。

◆ ◆ ◆
報告 佐藤 ◆ ◆ ◆
好天に恵まれ五人で口太山・女神・千貫森を駆けまわりました。口太山は雪は少なかつたものの解けた所は足下注意。大昔は姥捨て山だったらしいです。女神山は小千姫様祀る山。正さんが神聖なる場所を案内してくださいました。千貫森はUF〇が見えると思う。小千姫神社も祀られていました。やはり養蚕で生計を立ててたんですね。どの山も展望が素晴らしいですが、山を登るのは楽ではないです。この階段はイヤ。ロープに頼らないと滑る。言いたい放題(私だけかなあ)の楽しい里山でした。遅めの昼食は、長澤さんの準備して下さったラーメン。美味しかったです。ご馳走さまでした。

◆ ◆ ◆
報告 長澤 ◆ ◆ ◆
今回の参考は千貫森、女神山、口太山と、地元でもあり、いずれも「うつくしま百名山」に選定され、昔から県内外からの多くの登山者に親しまれている山です。少し各山の特徴をまとめてみたので、四季折々に是非とも訪れて欲しい里山です。

▼口太山 八四二・六級、三等三角点。川俣町、二本松市東和町にまたがる。山開き五月第二日曜日。大綱木、夏無沼キャンプ場。コースは周囲もあり地元愛好会で整備されており、とても歩き易い!!。山頂からの展望は安達太良山、吾妻連峰、那須連峰、阿武隈高原の山々。山頂の山つつじ、山芝、紫色に咲くトウゴクミツバツツジ、中腹に咲くニリン草の群生地もあり、見守りたい。伝説には白い鹿が猿の化け物を追い払って、藤原一族の実友を助けたと川俣史にあり、猿の名所も多い。山頂直下には石尊神社が祀られている。

▼女神山 五九九・四級、一等三角点。川俣町、伊達市、月館町にまたがり、火成岩イボ石(玄武岩の一種)で出来ている。山開き四月第三日曜日、秋山集会所、堀切登山口、柗平、月館登山口も立派な東屋、駐車場完備、七ツ森掘沢山経由で、縦走可能。

女神山は名前が良く秋田県に三座、佐渡ヶ島にもあり、完登された方もいた。小千姫は養蚕と絹織物の技術を教えて一生を過ごしており、現在も各地に桑畑が多く残っている。

展望は三六〇度、安達太良山から吾妻、蔵王連峰、那須甲子二岐山、会津の山々等沢山、カタクリ、山つつじ、山頂にはコブシやカエデ、ホタルブクロ、ヒトリシズカ、シヨウジョウカバタ、三色スマイル、トリカブト、アゲハチヨウ、ムラサキシジミ蝶、オオムラサギ、クワガタなど、昆虫類も多く生息している。

▼千貫森 四六二級、三等三角点。福島市飯野町と川俣町秋山に位置し、東西南北より三角錐・ピラミッド型で峠山・たんがら山、とも、展望台からの眺望は、低山ながら素晴らしいものがある。山開きは四月第二日曜日、天井山と合わせて行われる。登山口は現在の国道の下に旧国道に車を駐車して急登し、UF〇館脇より宇宙人像に挨拶しながら程なく山頂に着く。山の裏にはカタクリ群生地、スマイル、桜の名所となっている。周回コースも良い。

昔から磁石も狂うと言う程磁鉄鉱の多い山で、伝説にも、現在も未確認の飛行物体が往来する山だ。今の科学では説明のつかない音もなく航路も高度もフリーの曲芸飛行の光り物が現れるかも!!。

下山後、UF〇ふれあい館で温泉に入り、UF〇物産館の飛び魚ラーメンを食べながら、往路を戻ろう。

写真は次頁以降に

二月二十四日(日) 二月山行、冬山パトロール 報告 椎原



当会メンバー左3人、警察右4人

【参加者】C工椎原 長澤・鈴木・警察 官四名(七名) 【行動】二月二十四日に安達太良山冬山パトロールに行ってきました。今回は山の会三名に警察四名の合計七名でスタートしました。

コースは奥岳からリフトを乗り継いでゲレンデ上部から歩き始めましたが、今年にはほとんど雪が少なくアイスノンにもつげずにスタート、五葉松平の標識も頭がすっかりとでています。途中、仙女平分岐でア



山頂集、会員は1名だけ



良く晴れて、山頂は賑やか

イゼンを装着してさらに上を目指します。この日は天気も良かったので大勢の登山者が登っていましたがほとんどアイゼンでスノーシューなどを付けている人はいませんでした。にかく若い女性が多かったです。女性だけのPTなど小屋も五十名程度の宿泊があるとのことでした。途中、警察とは現在位置の特定や過去の遭難事例の話、装備品の話など色々な情報の交換が

できました。四名参加のうち二名は初めてパトロールに参加された方で最高の思



千貫森展望台で



長澤さんが準備してくれたラーメンを戴きました

い出には、なったと思います。



回太田、女神山、千貫森写真真集



タカ子さん提供の甘酒

機織りがこの地方に伝えられたのは、奈良・平安の頃だと伝えられています。都から人が来たり、都に年貢を届けたり、都との交流は今程でないですが、結構あったと思われます。養蚕を伝えたのは、女性(の神様)であったようで、阿武隈川のこちら側には「機織御前」、川向こうには「小手姫」と名が伝わっています。おそらくは都から養蚕技術を持った女性の集団がこちらに来たのでしょう。まとめ役が「機織御前」「小



女神山ご神体岩

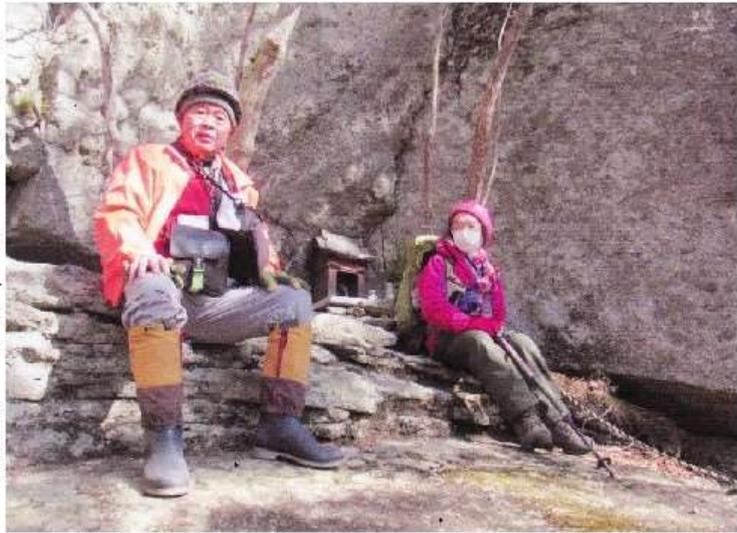
女神山・小手姫物語

手姫」だったのでしょうか。川俣地方に伝えたのは「小手姫」を纏め役とする一回で、持参してきた種から蚕を育て機(はた)を織り、都へ送ってお金にした、お金というものを得る手立てを教えてくれた女性達、この地方の人々にとっては、まさしく「神様」だったに違い有りませぬ。 私が 女神様に気付いたのは、山の会先輩と登った時でした。山頂のあつち胎内潜りあるから行って来たらどうだ、くらいい事です。恐らく一人で、西の端の危ない所下りました。そこで金文字の彫り込み見付けて、ああ、ここにも、神様祀ってあるんだ、位の気持ちで手を合わせて、その後何度か来ていますが、その程度で、お姿に気付いたのは四、五年前の事です。 先ず左手、右手は袖の中、こう見ると、まさに女神様です。恐らくお祭の時は、お顔お面で準備して、女神様としてお祈り捧げたのでしよう。金文字時々お色直している方がいらっしやるのでしよう。(渡辺正)

二月五日(火)

初竜子(たつご)山

報告 菅野



竜子姫神社にて

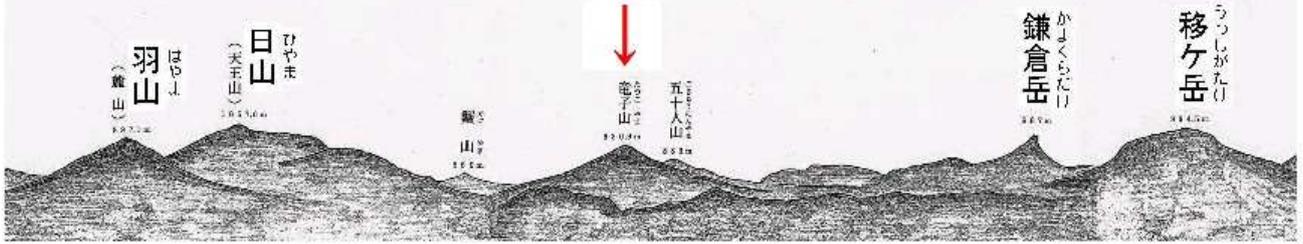
書店で、「ふくしま低い山五〇」という本と出会い、竜子山が目に入った。竜子山には道が無く登るのは無理と信じていた。さっそく本を購入、二月五日地図を頼りに奥道一五四号線の竜子山登山口の看板を見付るが、ガイドブックの写真とは別の場所の様だが、看板を信じ入山する。部落を過ぎると林道となる。杉林を

カップがあり、元朝参りの客が来たのかな?。岩の左側を登り岩屋の上二出る。目印に付けたと思われる古いテープを頼りに、尾根らしき所を登る。巨石を撒く様に登る所があり、山頂直下と思われる所に大きな壁があり、登るのには無理。左の尾根は急で、右の尾根は登れそうだが急な斜面を行かなくてはならない。無理と判断、今日はここで諦めた。時計も十二時過ぎていた。目印を頼りに下山するが、途中目印を見失い右往左往する。竜子姫神社に着いた時は一安心、無事下山する事が出来た。

地元の人のお話によると、竜子山が本に出たので、登山者が来るかも?等と話が出ていた様だ。だが今回のコースはガイドブックとは違うコースを歩いていた。地図やガイドブックで勉強し、再度挑戦しようと思っている。楽しみがまた出来た。



竜子山登山道入口



二月二十日受領

達成観の喜び今も熱く

報告 本多

テレビで日本百名山放映を見るたび、「うん」と思いつつながら、あの時の達成感とあの景観が鮮明に思い出される。どの山も登りはじめて三十分、体が馴染むまでは風景を見る目はなく、地面を見たり胸突きハ丁の登り坂を恨めしくも思いながら進む。根元から曲がった老木を見て、若木の頃は空に向かって精いっぱい頑張っても雪の重みには勝てず我慢の時を過ごし、やっと自然の掟にも負けず今日に至ったのかと撫でてあげたくなる。一服した時、大自然を謳歌した大木も、力尽き行く先をさえぎって倒れる姿も、人の世と重なり「今までよく頑張ったね」とささやいた事もある。また、縦走で疲れ果てた時には、「何でこんなに頑張るんだ」と思ったりしながら頂上を目指した。谷から尾根に辿り着くと、過酷の環境の中で子孫を残す高山植物の驚きの知恵を見る。厳しい環境の中で、雪解けから短い時間太陽の光かけに花を咲かせ、頼りの虫達を誘うため艶やかに開花する。花も虫達にも一瞬のときめきの恋の季節を雨風に耐えて咲き誇る花たちは、何故こんな厳しい環境を選んだの

か不思議でならない。多くの高山植物は、「子孫の繁栄に通じているから群生しているのだ」と理解し感動した。

そんな時偶然、テレビ番組に「天空の花畑大雪山」が目にとまり、懐かしく北海道の山々が甦った。高山植物に詳しい方が事細かく話され、新たな思いで花々を観察する気持ちになった。動くことのできない植物が、「どうすれば生きのびることが出来るのか」を詳しく知ることが出来た。何気ない自然の中に、種族を自然環境に合わせ身を守る姿は驚きだった。花を閉じて寒さと雨から身を守り、虫が来る時に開花し花粉を出し受精に協力させ、寿命が来た花も花粉の色を変えて虫達をおびき寄せる逞しさなど知ることが多かった。

頂上に立てば今までの苦労もそよ風に飛ばされ、感極まりなく腹の底から大声で「ヤッホー」と叫びたくなる。辿った道を振り返り、感激がこみあげて来る。たいてい頂上は正午頃だ。夏山は午後になると雷雨に見舞われることが多い。直面すると身も与奪(よだつ)思いだ。身の置き所もなく、

自然の恐ろしさを感じる。晴れていけば登る時は地面しか見えないが、下山は景色を満喫できるが足元に気を付けなければ大変なことになる。事故の多くは下山時に遭遇することが多い。「家に帰りつくまでは山を征服した事にはならない」と思うようになったのはつい最近かも知れない。



2019年2月7日の安達太良連峰、霞ヶ城公園西側周回道路から

【入会・退会役員】

▼本田

▼竹部